

## オーラルフィジシャン スウェーデン マルメ研修 2016

今回、初めてのスウェーデンのマルメ研修に参加させていただきました。

今回のマルメ研修2016に参加するにあたり、研修前に過去の参加医院の皆様の感想を拝読させていただきました。

どの方達も、最先端の予防医療に直に触れ、多くの方達が有意義な研修になったと記載されておられました。

私も、予防の聖地と言われているスカンジナビアのスウェーデン・マルメにて研修を経験できると緊張感を抱いて参加いたしました。

研修を終えて実感したのは、日本と異なる、スウェーデンという国の特殊性とでした。

人口も日本の約1/10とコンパクトで、日本と違い、非常に柔軟性に富んだ国民性であるというのが最大の特徴でした。

5日間のマルメ大学研修は、エビデンスベースの講義・研修・臨床という、スウェーデンの生の医療に触れる内容でした。

柔軟性に富んだ国民性から、歯科医療も、当初抱いていた予防医療のグローバルスタンダードというスウェーデンのイメージというより、実際には独自の進化を遂げたガラバゴスに近いのかなと感じました。(間違っていたら、すみません。)

今回のマルメ研修に参加するにあたり、私たちが過去の2007年や2011年、2014年の研修された方々と大きく違ったのは、おそらく私たち世代(オーラルフィジシャンセミナー30期)は日々進化し続けている日吉歯科診療所の様々な研修がオンタイムで受講可能になり、スウェーデンでおこなっているものと私たちのおこなっている歯科医療の圧倒的な差や距離感を今回の研修ではさほど感じなくて済んだことです。

というのも、スウェーデンのマルメ研修に向かう前に、私はEBDセミナーカリオロジーを同じ6月に受講したのですが、過去だったら数年のタイムラグがあったかもしれない内容が、日本とスウェーデンで、ほぼ同じ内容をオンタイムで2回受講できたという経験をしたからです。

そのため、圧倒的な医療レベルの差に衝撃を受けている間に研修が終わるという形にならずに済みました。

冷静に日本とスウェーデンの土壌・国民性・医療のあり方などの違いを観察する時間も取ることができ、スウェーデンから日本の歯科医療産業は何を取り入れることが大切であるか考察することができました。

海外に足を運んでみて、外から日本の歯科医療産業の強み・弱みも確認できました。

日本の歯科医療産業は、日本人の国民性からわかるとおり、産業自体は非常に優秀であり、規模・土壌なども非常に恵まれているという強みがあります。

弱みとしては、現行の古い保健医療を含めた医療を取り巻く環境やシステムにほころびができれば、それによる国民の歯科医療に求めるニーズと実際の医療に乖離を生じ、国民や私たち歯科医療従事者の手元にあるべき本来の歯科医療の実践が難しくなっているという点です。これは、スウェーデンとは致命的に異なる点であると言えます。

しかしながら、日本の歯科医療産業も、転換期を迎える時期にあり、その転換期にうまく対応ができれば、スウェーデンよりも優れた歯科医療産業に転換できるという可能性があることも強く感じました。

マルメ研修を受講してわかったことは、スウェーデンも日本と同じように高齢者が増え、海外からの移民受け入れによる文化・人口動態・社会の目まぐるしい変化に、今現在どのように医療を変化させていくかという真っ只中にあり、社会保障制度、医療システムや質の向上のための変化の真っ只中でした。

日本と違うのは、政府や研究機関や医療機関の対処や、アンダーグラウンドでの研究レベルの動きが非常に早く、迅速に社会の変化に対応するという点でした。

ただ同時に問題としては、医療の財源となる資本の管理が公による割合が高いため、診断や研究では非常に高い成果を上げているにも関わらず、実際の歯科医療技術の質を担保し続けるのが非常に困難であるという側面も垣間見ました。

日本の歯科医療産業の有利な点は、産業自体の規模が大きく、まだまだ時代の変化に対応できるだけの体力が国や国民に残っているという点です。

しかも日本人は国際的にも、市場経済において自由競争で揉まれているので、国民一人ひとりが資本をマネジメントすることを普段から実践しており、資本をマネジメントするという点に関しては非常に長けているという国民性を持っています。

私たちが来院される患者さんたちに、真に安全で質の高い検査・診断・治療の提案や実践さえできれば、患者さん一人ひとりが自ら選択し、国や政府がおこなうよりもよほど有益に医療費をマネジメントできるのではないかと。

私たちがおこなうべき、日本のあるべき歯科医療の姿を考える材料をたくさんいただくことのできた、たいへん有意義な研修であったと実感しています。

最後になりますが、熊谷先生をはじめとする日吉歯科診療所のみなさま、名鉄観光のみなさま、大竹社長やオーラルケアのみなさま、そして何より、ダン＝エリクソン先生をはじめとするマルメ大学の諸先生方にはとてもとても感謝しております。

今回の研修で得たことを、日々の歯科医療(哲学や倫理、診断、技術、コミュニケーションなど様々な事柄を含めて)にいかしていくつもりです。

本当にありがとうございました。

バンブーデンタルクリニック 竹市 光敏

